

最近の調剤医療費（電算処理分）の動向
平成 29 年 9 月

○ 概要

(1) 平成 29 年 9 月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同様。）は 6,183 億円（伸び率（対前年度同期比、以下同様。）+2.6%）で、処方せん 1 枚当たり調剤医療費は 9,183 円（伸び率+0.8%）であった。（→P.1~2）

調剤医療費の内訳は、技術料が 1,544 億円（伸び率+3.8%）、薬剤料が 4,629 億円（伸び率+2.2%）で、薬剤料のうち、後発医薬品が 808 億円（伸び率+15.0%）であった。（→P.4）

(2) 薬剤料の多くを占める内服薬の処方せん 1 枚当たり薬剤料 5,625 円（伸び率▲0.5%）を、処方せん 1 枚当たり薬剤種類数、投薬日数、1 種類数 1 日当たり薬剤料の 3 要素に分解すると、各々 2.80 種類（伸び率▲0.8%）、23.9 日（伸び率+0.8%）、84 円（伸び率▲0.5%）であった。（→P.8,9）

(3) 薬剤料の多くを占める内服薬 3,788 億円（伸び幅（対前年度同期差、以下同様。）+46 億円）を薬効大分類別にみると、総額が最も高かったのは 21 循環器官用薬の 806 億円（伸び幅▲15 億円）で、伸び幅が最も高かったのは 11 中枢神経系用薬の+38 億円（総額 676 億円）であった。（→P.10）

年齢区分 (→P.10~15)	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	3,788 億円 (+46 億円)	21 循環器官用薬 (806 億円)	11 中枢神経系用薬 (676 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (559 億円)
0 歳以上 5 歳未満	32.8 億円 (▲1.6 億円)	44 アレルギー用薬 (14.1 億円)	61 抗生物質製剤 (7.3 億円)	22 呼吸器官用薬 (5.2 億円)
5 歳以上 15 歳未満	76.4 億円 (+1.8 億円)	44 アレルギー用薬 (30.8 億円)	11 中枢神経系用薬 (17.2 億円)	61 抗生物質製剤 (9.6 億円)
15 歳以上 65 歳未満	1,315 億円 (+19 億円)	11 中枢神経系用薬 (294 億円)	21 循環器官用薬 (244 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (207 億円)
65 歳以上 75 歳未満	929 億円 (▲18 億円)	21 循環器官用薬 (238 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (165 億円)	11 中枢神経系用薬 (114 億円)
75 歳以上	1,435 億円 (+45 億円)	21 循環器官用薬 (321 億円)	11 中枢神経系用薬 (251 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (183 億円)

(4) 処方せん 1 枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では 9,183 円（伸び率+0.8%）で、最も高かったのは京都府（10,915 円（伸び率▲2.0%））、最も低かったのは佐賀県（7,891 円（伸び率▲0.4%））であった。

また、伸び率が最も高かったのは沖縄県（伸び率+4.0%）、最も低かったのは山梨県（伸び率▲1.6%）であった。（→P.27~28）

【後発医薬品薬剤料】 808 億円（伸び率：+15.0%、伸び幅：+106 億円）（→P.36~37）

【後発医薬品割合】（→P.35）

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース（新指標） ^注	69.6%	+3.1%
薬剤料ベース	17.5%	+1.9%
後発品調剤率	68.7%	+2.2%
（参考）数量ベース（旧指標）	47.3%	+2.8%

注）〔後発医薬品の数量〕 / 〔〔後発医薬品のある先発医薬品の数量〕 + 〔後発医薬品の数量〕〕で算出。

【後発医薬品 年齢階級別】（→P.37）

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	+15.0%	+33.6% (5 歳以上 10 歳未満)	+9.4% (65 歳以上 70 歳未満)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	16.9%	18.6% (0 歳以上 5 歳未満)	12.0% (10 歳以上 15 歳未満)

【後発医薬品（内服薬） 薬効分類別】（→P.38~44）

年齢区分 (→P.38~44)	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	719 億円 (+95 億円)	21 循環器官用薬 (217 億円)	23 消化器官用薬 (110 億円)	11 中枢神経系用薬 (83 億円)
0 歳以上 5 歳未満	7.2 億円 (+1.6 億円)	22 呼吸器官用薬 (2.6 億円)	44 アレルギー用薬 (2.4 億円)	61 抗生物質製剤 (1.2 億円)
5 歳以上 15 歳未満	13.2 億円 (+3.6 億円)	44 アレルギー用薬 (7.3 億円)	61 抗生物質製剤 (2.4 億円)	22 呼吸器官用薬 (1.9 億円)
15 歳以上 65 歳未満	241 億円 (+38 億円)	21 循環器官用薬 (62 億円)	11 中枢神経系用薬 (36 億円)	23 消化器官用薬 (31 億円)
65 歳以上 75 歳未満	181 億円 (+20 億円)	21 循環器官用薬 (69 億円)	23 消化器官用薬 (27 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (19 億円)
75 歳以上	277 億円 (+32 億円)	21 循環器官用薬 (85 億円)	23 消化器官用薬 (51 億円)	11 中枢神経系用薬 (34 億円)

【後発医薬品 都道府県別】（→P.57~62）

	全国	最高	最低
処方せん 1 枚当たり後発医薬品薬剤料	1,200 円	1,580 円（北海道）	1,007 円（佐賀県）
処方せん 1 枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	+13.0%	+17.2%（徳島県）	+9.2%（島根県）
新指標による後発医薬品割合（数量ベース）	69.6%	80.4%（沖縄県）	61.3%（徳島県）
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	17.5%	21.8%（鹿児島県）	14.8%（徳島県）
後発医薬品調剤率	68.7%	78.7%（沖縄県）	62.9%（山梨県）
（参考）旧指標による後発医薬品割合（数量ベース）	47.3%	57.5%（沖縄県）	42.3%（徳島県）

〔利用上の留意点〕

分析対象レセプトの特徴

- 審査支払機関（社会保険診療報酬支払基金及び国民健康保険団体連合会）において、レセプト電算処理システムで処理された調剤報酬明細書のデータを分析対象としている。
- 平成29年9月現在の電算処理割合は、処方せん枚数ベース、医療費ベースともに約99%である。